



三井  
王口の狼狽

見るもアワレふ  
会社のオゲケ振り  
九月十日

日本一の三井王口も労働者を敵々いちめてみた  
お陰でストライキが始まるや枕も高くは眠れない始  
末だ。神奈川縣の警備本部の全力を動員し、  
幹部には二百名の私服常尾行をせし、各隊本部に  
云ふに及ばず町をまたに五時まで晝夜の大捜索採り  
朝田公会堂には毎日數十名の私服が、スローに云へ

が獲い出せる仕度で晝寝してゐる。

鉄条網、探照燈、火見ヤグラで武装を固めた  
鶴見工場 — 二百三高地の要塞をそのまま —

これでも心を安んずることの出来ぬ奴等は、警備部隊の報告によると、工場を砲台  
のやうに固めてゐるやうだ。又首にまつた健康保険患者が継続被保険者となるたの  
伯に會社に行つて帰つた時の話も聞くと斯うだ。  
門前にバリケードと鉄条網が張りめぐらされ、五丁尺の火見ヤグラが知りぬ間に突立  
り、夜帳に染じて海から侵入する曲盾(？)を照すために、海岸近くには探照燈が掲げ  
られ、北である。それはかりぢやない、草刈ラの中からユツマリと会社と忍び寄ること  
を、ハイの外側一帯をキレイに草を刈つてしまつた。  
諸君、何と可愛想な、アハ、また何とコツツやいなことではないか。

會社の便衣隊出沒す

奴等の搖言に迷はされりなり!!

そろそろ會社の便衣隊(者)が風呂場や、ゆしやや、街頭に出沒し出し

た。彼等の中には、會社の社員、工長、私服スパイ、白服等々がある。

総司令部情報部の探知したところによると

一タカラ場に現れた曲盾は、會社は近く一齊に出動命令を發し、若しその日に出来れば、

い者は自由退社と認めるやうな、と争や団員の不安を引き起すよつな言を發して去た。

社員が便衣隊となつて、罷業中の臨時工は、五十九日の期限が切れても出て来ない時は、

雇傭関係は自然消滅すると宣傳してゐる。(フル新聞もその燈籠を持つてゐる)

一スパイ広沢某は、我が勇力取る多量警備隊員の一人に向つて、昨日会社の赤に立

つて、向君達ばかり幹部に不ダテらして、雨を降るのに暗い中からかや

やつて検束されたり、ツマヤアではな、幹部は夜おそくカフエー遊びを、

して酒を呑んだりしてゐるのだぞと

オセツカイを云つて警備隊員に嘲笑された。

會社はコンナにして凡ゆる力を動員してゐるのだ!

吾等の警備隊、宣傳隊、斜察隊よ

凡ての場所が吾等の戦場だ!

全面的に敵を攻撃せよ!

鶴見芝浦製作所争議団